

企業ニュース HOYA

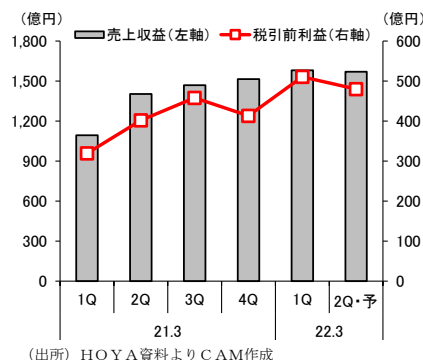
(東証1部 : 7741) <http://www.hoya.co.jp>

作成者: 村上大志

ライフケアと情報・通信事業が柱の精密機器大手

1941年創業。光学ガラスの製造から始まり、現在ではメガネ・コンタクトレンズや眼科医療機器、半導体製造用マスクブランクス、HDD用ガラス基板などを手掛ける。ライフケアと情報・通信という2つの事業分野を柱に、ビジネスモデルや景気感応度などが異なる複数の事業を展開することでリスクを分散させ、グループ全体の収益性・安定性・成長性を確保していくポートフォリオ経営を行っている。21.3期の事業別売上高構成比はライフケア分野のヘルスケア関連（メガネ・コンタクトレンズ）46%、メディカル関連（内視鏡や眼科医療機器など）17%、情報・通信分野のエレクトロニクス関連（半導体用マスクブランクスやHDD用ガラス基板など）31%、映像関連5%、その他1%。

◇売上収益・税引前利益の推移



ライフケア、情報・通信ともに大きく回復

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上収益が1,580億円、前年同期比45%増、税引前利益が510億円、同60%増。セグメント別では、ライフケアの売上収益が968億円、同56%増、税引前利益は218億円、同112%増。欧米や中国で力強い回復がみられたメガネレンズが業績をけん引したほか、病院の設備投資回復に伴い内視鏡が堅調だった。情報・通信の売上収益は598億円、同29%増、税引前利益は300億円、同39%増。EUV（極端紫外線）用マスクブランクスが好調だったことに加え、データセンター向けでHDD用ガラス基板の需要が増加した。

業績予想は1四半期先までの開示のため、22.3期の会社計画は非開示。22.3期・第2四半期累計（4-9月）の売上収益は3,150億円、前年同期比26%増、税引前利益は990億円、同37%増。ライフケアでは国内市場の回復は引き続き鈍いが、海外市場の回復継続が見込まれる。情報・通信では顧客側での素材・部材の不足や価格高騰により、カメラ向けレンズなどへ影響が出る可能性があるが、過度な懸念は不要とのこと。EUV用マスクブランクスは次世代半導体の開発に向けて堅調に推移している。他社の参入による競争環境の変化は注視したいが、半導体メーカーの認定作業は進んでおり比較されるような状況ではないとのことから、今後も成長が期待される。

【株価動向・投資判断】

好決算の発表で株価は高値圏で推移している。事業環境は良好で持続的な成長が期待できよう。

<7741 HOYA 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	税引前利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
20.3	576,546 (2)	- (-)	147,268 (2)	114,406 (▲ 6)	303.3	90.00
21.3	547,921 (▲ 5)	- (-)	159,218 (8)	125,446 (10)	335.8	90.00
22.3 予	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	-

(注)業績予想は1四半期先までの開示のため、22.3期の業績予想及び伸び率は「-」表示



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/7/30)	15,405 円
年初来高値 (高値日)	15,625 円 (21/7/30)
同 安値 (安値日)	11,665 円 (21/3/5)
予想 P E R (22.3 予)	- 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,914.6 円
P B R	8.05 倍
予想配当利回り	- %
(1株当たり配当金 未定)	
R O E (21.3)	18.8 %
発行済み株式数	36,970 万株